

## めばえ保育園の自己評価

昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度も園生活や活動（行事）の制限を余儀なくされました。

限られた中での保育ではあったが、日々の生活や体験を通して、成長していく子どもたちの育ちを保障していけるよう、その都度、計画を見直しつつも、子どもたちに対しては、なるべく制限をかけずに普段通りの日常生活を過ごせるようにしていきました。

とはいえ、登園自粛要請や保護者の園内立ち入り制限などにより、園生活の様子（育ち）を伝えることや家庭での姿をお聞きすることが難しく、1人ひとりに応じて関わりを営んでいくうえでは、色々なことが弊害になっていました。

そんな折、感染状況が落ち着いた12月に“保護者の園内立ち入り制限を解除”した際には、保護者の手を引っ張っては部屋を指さして教えたり、製作物を持ち出しながら、その日の出来事を楽しそうに伝える子どもたち姿やその話に嬉しそうに耳を傾ける保護者の姿などが見られました。

コロナ禍においても、保護者の方に保育が伝わるよう（子どもの育ち）、おたより帳（年少組）やクラス便りなどを活用したり、保育場面の様子を写真で掲載してきたが、改めて、実際を見てもらうことの大切を感じました。

規模を縮小して行った運動会においても、保護者より「集団の中での我が子を客観的に見る機会にもなり、先生や友達と普段どう過ごしているのか少し見ることができ、良かったです。」や「クラスメイトのお友達の成長した姿を見たり、関係性が見れたりと日常の様子が見れてとても有意義でした。」とのご意見をいただいたことから、感染状況を踏まえながらではあるが、今後も可能な限り“実際を見てもらう”ということを大切にしていこうと思っています。

幼児教育・保育の無償化により保育現場には、より質の高い保育が求められているが、コロナ禍において多様化・複雑化する課題へ柔軟に対応できるよう、取り組んでいく必要性も感じている。保護者の方々との連携をとりながら、子どもの最善の利益を追求すべく令和4年度の保育に臨んでいきたい。